

苦難に負けず 一步一步



東日本大震災発生から11日で3年。年月は過ぎる一方、地震や津波、東京電力福島第1原子力発電所事故からの復興はいまだに道半ばで、被災地の苦難は終わりが見えない。犠牲者を追悼し復興を静かに誓う人、失われた緑を育てる人、思い出を今も探し続ける人……。人々のさまざまな表情を岩手、宮城、福島の3県で追った。
 (山田晃太郎、清水正輝)

祈り 誓う

未来のために

被災した宮城県名取市の農家が、農業支援に取り組む公益財団法人「オイスカ」と共に黒松の苗木を育てている。東北地方では海沿いに木を植えて、やませ

や塩分を含んだ風から農作物を守ってきたが、津波で多くが押し流された。今年4月から7年間で50万本を植え、20年以上、手入れを続けて林を育てる考えだ。同市の農家、高梨仁さん(64)は「時間はかかるが、孫と地域農業の未来のため、地道にやると力を込める。」

東日本大震災発生から11日で3年。年月は過ぎる一方、地震や津波、東京電力福島第1原子力発電所事故からの復興はいまだに道半ばで、被災地の苦難は終わりが見えない。犠牲者を追悼し復興を静かに